

小学校通知表所見の言語分析による教員の力量形成について ～所見記述の一般的傾向と課題～

山崎 宣次*¹／掛川 淳一*²／小川 修史*³／加藤 直樹*⁴／興戸 律子*⁵／森広 浩一郎*⁶

＜概要＞経験年数にかかわらず、担任教員が通知表の所見を書くことは大変な作業である。そこで、筆者らは所見記述支援について取り組んできた。昨年、現場教員を対象に通知表所見に関するアンケートを実施した。今回さらに複数教員に所見の実態について聞き取り調査を実施した。調査から一般的な所見記載についての傾向と課題について報告する。

＜キーワード＞テキストマイニング、通知表、所見、小学校、教師教育、特徴単語

1. はじめに

小学校の校務の中で、通知表の所見記述は最も負担感が高い（山崎，2013a）。しかし、所見そのものに関する先行研究はほとんど見られない。そこで、筆者らは所見記述に関する実態を把握するため、昨年度大阪府と岐阜県の7校、84名の教員対象にアンケート調査を実施した。その結果、教員が所見を記述する参考にしているものは、過去に自分が書いた所見が一番多く、次いで管理職の指導、さらに文例集などの本であり、同僚や先輩の教員からの指導助言を参考にしている教員は半数以下であることが分かった（山崎ら，2013b）。

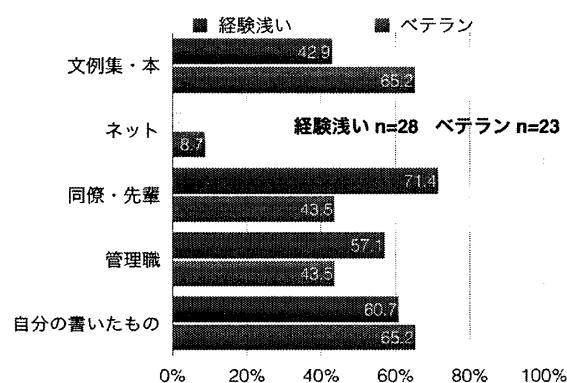


図1 所見を書くときに何を参考にするか

（※実際に所見を記述した経験があり、経験年数をはっきり回答した51名の結果）

特に、経験年数が多い教員は、少ない教員より同僚・先輩教員の指導助言を参考にする割合

が少なかった。

そこで、今回複数教員に対して、聞き取り調査を実施し、どの程度所見データを職員間で共有し、他教員の所見についてどのように利用しているかを具体的に調べた。本研究の目的は、これらの調査の結果から、小学校における所見の現状報告をするとともに、児童にとって効果的な所見を書けるようになるための教員の力量形成支援について検討することである。

2. 調査方法と結果

（1）調査方法

経験年数が1年目から30年目まで様々な経験年数で勤務校も全て違う教員6名に対して、それぞれ下記について聞き取り調査した。

- ・勤務校において、校内LAN等を利用し、他教員の所見を閲覧することが可能であるか。
- ・他教員の所見を閲覧できる場合は、自分が所見を記述する際に他教員の所見を閲覧しているか。その理由は何か。
- ・今まで自分が書いた所見をどのように参考にしているか。
- ・その他（所見記述について思っていること等）

（2）結果

聞き取り調査から下記のことが分かった。

① 他教員の所見が閲覧できる環境について

所見の一覧を紙媒体で保管してある学校は、学校用金庫等に保管し施錠している。管理職の許可を得れば、各教員はこの金庫から他教員が

*1 Yamazaki, Senji: 中部学院大学 子ども学部 (〒504-0837 岐阜県各務原市那加甥田町 30-1)
(兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科)

*2 Kakegawa, Junichi: 兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科

*3 Ogawa, Hisashi: 兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科

*4 Kato, Naoki: 岐阜大学 総合情報メディアセンター

*5 Okido, Ritsuko: 岐阜大学 総合情報メディアセンター

*6 Morihiro, Koichiro: 兵庫教育大学 大学院 学校教育研究科

今までに書いた所見を閲覧することは可能である。一方、校内LANが整備されている学校は、教員用の共有フォルダー内に過去の所見が保管されている学校が多い。各所見にはパスワードがかけられているが、このパスワードを他教員に聞くことで閲覧は可能である。なお、学校によってはこのパスワードは共通である場合もあった。しかし、地域によって校内LANが整備されていても機密文書保護のため、所見は共有フォルダー等に保存しない学校もあった。

以上のことから、ほとんどの学校で紙媒体もしくは、校内LANで他教員の所見を閲覧することは可能であった。

② 自分の所見を書く際に、他教員の所見を閲覧するか。

初任者は、他教員の所見を閲覧することはあるが、ある程度の経験がある教員は、仮に校内LAN等で自由に他教員の所見を閲覧できる環境であってもほとんど閲覧しないことがわかった。その理由として、

- ・他教員の所見はその教員のくせがあるので、閲覧してもあまり参考にならない。

- ・所見は提出期日までに書き上げなければならないので、じっくり他教員の所見を閲覧している余裕がない。

つまり、教員の多くは各教員に書きぐせがあると認識しており、自分の所見記述に他教員の所見データを直接参考にしない。また、所見の生データで具体例は分かるが、自分が欲しい情報（どの児童にはどんな書き方をすればいいか等）を見つけ出すのに非常に効率が悪いので、実際には他教員の所見を参考にするのは非常に少ない。

③ 今まで自分が書いた所見をどのように参考にしているか。

ある程度の経験がある教員は、過去に書いた所見を参考にしていると答えたが、その場合も、現在の学級で担任している特徴的な児童の所見を書く際に、過去に似たタイプの児童を担当した経験がある場合のみ、過去の所見を取り出して、参考にしている。それ以外の児童については自分の記憶にある過去の所見例を基に書いていると答えた教員がほとんどであった。

④ その他

校内で初任者を指導する時には、指導教員がよい所見とされる例をいくつか紙媒体で初任者に提示し、所見の具体的な書き方の指導をすることが多い。

所見はその教員によって書きぐせはある。そ

の点、市販されている文例集は書きぐせがほとんどないので、参考にすることは多い。しかし、文例集の所見はそのタイプの児童ならどの児童にも通用する書き方がされているため、そのまま使用できず、自分の学級の児童に照らし合わせて表現等を変更する必要がある。

自分の所見の書きぐせはあるとは認識しているが、必ずしも全てを把握しているわけではない。管理職など他教員からのチェックを受けて初めて自分の書きぐせに気づくことが多い。

3. 考察と今後の課題

今回の調査で、所見は共有できる状況になっているが、生の所見データは参考になりにくく、ほとんど活用されていないことが分かった。また、経験のある教員は所見の書きぐせがあることも分かっているが、自分ではそのくせを見付けにくいことも分かった。

そこで現在、教員が所見を記述する力量形成のために、自他の所見データをテキストマイニングを用いて特徴的な単語（特徴単語）を抽出し、提示するといった教員の学習支援に取り組んでいる。今後、その成果を公表していく。

4. 謝 辞

本研究は JSPS 科 研 費 24501188 と 26350350 の助成を受けたものです。また、電気通信普及財団からの助成も受けています。

5. 参考引用文献

- [1] 山崎宣次(2013a)小学校における校務の負担感, 大阪成蹊短期大学研究紀要, 第 50 号 pp.39-52
- [2] 山崎宣次, 森広浩一郎, 掛川淳一, 中間玲子, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子(2013b) 小学校における通知表等所見の現状～教師のキャリア形成として～, 日本教育情報学会第 29 回年会, 大会論文集.pp.296-297
- [3] 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子, 森広浩一郎(2014a)テキストマイニングによる通知表所見の比較, 日本教育工学会 研究報告集, JSET 14-1, pp.33-40
- [4] 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子, 森広浩一郎(2014b)特徴単語による小学校通知表所見の教員間比較, 教育システム情報学会 研究報告, vol.28, no.6, pp.207-214